



2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月25日

上場会社名 フューチャー株式会社

上場取引所 東

コード番号 4722 URL <https://www.future.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 金丸 恭文

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員

(氏名) 松下 恭和 TEL 03-5740-5724

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	44,222	11.6	10,383	10.9	7,119	△1.1
2022年12月期第3四半期	39,614	10.7	9,361	43.0	7,195	54.7

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 7,521百万円 (76.9%) 2022年12月期第3四半期 4,252百万円 (△31.6%)

	1株当たり四半期純利益
	円 銭
2023年12月期第3四半期	80.38
2022年12月期第3四半期	81.26

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第3四半期	63,558	48,864	76.9	551.62
2022年12月期	57,976	44,829	77.3	506.23

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 48,864百万円 2022年12月期 44,829百万円

(注) 2023年12月期第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年12月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	17.00	—	20.00	37.00
2023年12月期	—	20.00	—		
2023年12月期（予想）				20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	59,500	10.7	13,800	12.9	9,660	4.6	109.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期3Q	95,328,000株	2022年12月期	95,328,000株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	6,744,159株	2022年12月期	6,771,952株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期3Q	88,570,135株	2022年12月期3Q	88,542,082株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
経営成績に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	9
3. 補足情報	10
受注の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済環境をみると、不安定な世界情勢、インフレーションの継続及び海外金利の上昇といった経済環境の中でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）や業務改革、新たなデジタルサービス開発といったITを通じた経営改革への取組みは引き続き旺盛です。また、働き方改革関連法の施行等に伴う、従業員の働き方及び企業全体のサプライチェーンの見直しや、ESG・SDGs関連分野におけるITの活用も加速しており、あらゆる業種や領域においてIT投資が活発化しています。個人においては、ECサイト経由での購買、動画やオンラインを活用した娯楽やスポーツ観戦、ネットサービス上での教育、自己啓発など、ITの利用が定着し、これらに関連した様々なサービスが生まれています。

このような状況下、当社においては多種多様な顧客から案件を獲得したことに加え、中長期的な成長に資する大型プロジェクトが進行した結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は44,222百万円（前年同期比11.6%増）、営業利益は10,383百万円（同10.9%増）と増収増益となりました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益については、前期は特別利益として投資有価証券売却益を計上していたことなどから、7,119百万円（同1.1%減）と若干の減益となりました。

各セグメントの業績（売上高・営業利益）については以下のとおりです。

① ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）は、小売業の調達・製造・品質管理を一貫してデータ管理するプラットフォームの設計、アパレル業の基幹システムの刷新、新聞社グループのDX推進のグランドデザインのほか、食品卸や公共サービス業における基幹システム、ITインフラの刷新に係る設計・開発を行う等、引き続き多種多様な顧客の案件を獲得・推進いたしました。これらに加え、当社の中長期的な成長に資する、地域金融機関向け次世代バンキングシステム導入プロジェクトが、1行目は来期のリリースに向けた最終的な統合テスト、2行目は開発フェーズに入り、順調に推移したことをはじめ、物流業向けプロジェクトなど多くの企業向けのDX支援も順調に進行いたしました。また、品質管理を徹底しながらプロジェクトを進めた結果、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客システムのシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

FutureOne株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業界など業界特化型の営業展開による受注が拡大しました。一方で、インボイス制度への対応後に中小企業のIT投資が鈍化した影響で受注が鈍り、前年同期比で減収減益となりました。

株式会社ワイ・ディ・シーは製造業を中心とした新規の顧客開拓及び既存顧客への深堀、拡大が引き続き順調に推移し、これら従来のSIに加えて、基幹システム刷新やSmartFactory構想のグランドデザインコンサルティングといった戦略立案フェーズからの展開が増加しました。更には「YDC SONAR®」のライセンス販売の増加などもあり、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社ディアイティは、脆弱性診断、インシデント対応、ネットワークセキュリティソリューションなど、サイバーセキュリティ関連のサービスの新規案件が増加したものの受注が計画に届かず、製品の販売も規模の大きな案件の獲得がありませんでした。また、採用コストも継続して発生しており、前年同期比で減収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は38,067百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益は10,631百万円（同7.0%増）と増収増益となりました。

② ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、滞在在庫のクリアランスが一段落したことに加え、デジタルプラットフォームの活用により適正利益を単品管理し商品改廃や戦略売価の設定等を進めたことで粗利率が回復しましたが、競争が激しいアウトドア市場での販売が引き続き苦戦しており、前年同期比で減収減益となりました。

東京カレンダー株式会社は、雑誌販売が堅調に推移し、広告売上も回復基調にあるものの、新サービス「グルカレ」の展開に係る費用が発生したことから、前年同期比で増収減益となりました。

コードキャンプ株式会社は、個人向けは広告を抑制したことから売上が減少したものの、法人研修事業が引き続き伸長しました。加えて、コストを適切にコントロールしたことから、前年同期比で増収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、建設業や飲食業などで新規の構築案件が順調に推移したことに加え、会員管理パッケージ「FastBiz」やデータ分析システム「Fastball」を導入しているスポーツチームにおける機能の追加開発が増加したことから、前年同期比で増収増益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は6,061百万円（前年同期比2.6%増）、営業損失は323百万円（前年同期は営業損失307百万円）となり、前年同期比で増収減益となりました。

なお、報告セグメントにおけるフューチャー株式会社の持株会社機能の収益並びに費用及びセグメント間の取引消去を計上する「調整額」の営業利益が199百万円となり、前年同期比で440百万円の増益（前年同期は営業損失240百万円）となりました。これは、主にフューチャー株式会社がITコンサルティング&サービス事業から受け取る技術支援料等が増加したことによるものです。

(注) 上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,652	24,731
受取手形、売掛金及び契約資産	8,549	10,104
有価証券	1,000	500
商品及び製品	1,116	1,346
仕掛品	22	18
その他	1,498	4,764
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	38,835	41,460
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,815	1,858
減価償却累計額	△1,142	△1,235
建物及び構築物（純額）	673	623
土地	0	0
その他	3,107	3,302
減価償却累計額	△2,703	△2,878
その他（純額）	404	423
有形固定資産合計	1,078	1,047
無形固定資産		
のれん	401	1,131
ソフトウェア	2,992	3,649
顧客関連資産	56	111
技術関連資産	322	1,166
その他	5	4
無形固定資産合計	3,777	6,062
投資その他の資産		
投資有価証券	12,856	13,593
敷金及び保証金	1,188	1,199
繰延税金資産	—	2
その他	244	193
貸倒引当金	△4	△2
投資その他の資産合計	14,284	14,987
固定資産合計	19,140	22,097
資産合計	57,976	63,558

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,067	1,642
未払金	1,810	1,197
未払法人税等	2,280	2,266
賞与引当金	250	1,379
品質保証引当金	60	93
プロジェクト損失引当金	37	—
その他	4,354	4,612
流動負債合計	9,860	11,191
固定負債		
資産除去債務	356	357
繰延税金負債	2,798	2,998
その他	130	146
固定負債合計	3,285	3,501
負債合計	13,146	14,693
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
資本剰余金	37	84
利益剰余金	35,858	39,434
自己株式	△2,210	△2,201
株主資本合計	37,685	41,318
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,123	7,507
繰延ヘッジ損益	△5	2
為替換算調整勘定	25	35
その他の包括利益累計額合計	7,143	7,546
純資産合計	44,829	48,864
負債純資産合計	57,976	63,558

（2）四半期連結損益及び包括利益計算書
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）
売上高	39,614	44,222
売上原価	19,702	22,706
売上総利益	19,912	21,515
販売費及び一般管理費		
役員報酬	425	473
給料及び賞与	4,466	4,751
雑給	223	238
地代家賃	713	706
研修費	531	620
研究開発費	626	938
減価償却費	320	299
採用費	577	730
のれん償却額	7	116
その他	2,659	2,258
販売費及び一般管理費合計	10,551	11,132
営業利益	9,361	10,383
営業外収益		
受取配当金	187	160
持分法による投資利益	42	36
その他	10	55
営業外収益合計	240	252
営業外費用		
投資事業組合運用損	—	15
その他	4	3
営業外費用合計	4	18
経常利益	9,596	10,617
特別利益		
投資有価証券売却益	732	—
特別利益合計	732	—
特別損失		
投資有価証券評価損	10	—
特別損失合計	10	—
税金等調整前四半期純利益	10,319	10,617
法人税、住民税及び事業税	3,590	3,763
法人税等調整額	△466	△265
法人税等	3,124	3,497
四半期純利益	7,195	7,119
（内訳）		
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,195	7,119

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,962	384
繰延ヘッジ損益	3	7
為替換算調整勘定	15	10
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	△2,942	402
四半期包括利益	4,252	7,521
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,252	7,521
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	ITコンサル ティング& サービス事業	ビジネスイノ ベーション 事業	計				
売上高							
(1)外部顧客への 売上高	33,736	5,856	39,593	21	39,614	—	39,614
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	98	52	151	284	435	△435	—
計	33,835	5,909	39,744	305	40,050	△435	39,614
セグメント利益 又は損失(△)	9,938	△307	9,631	△29	9,601	△240	9,361

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社（テクノロジー部門を除く）の収益並びに費用の額であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	ITコンサル ティング& サービス事業	ビジネスイノ ベーション 事業	計				
売上高							
(1)外部顧客への 売上高	38,018	5,947	43,965	257	44,222	—	44,222
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	49	114	163	376	539	△539	—
計	38,067	6,061	44,129	633	44,762	△539	44,222
セグメント利益 又は損失(△)	10,631	△323	10,308	△125	10,183	199	10,383

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社（テクノロジー部門を除く）の収益並びに費用の額であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

（企業結合等関係）

企業結合に係る暫定的な会計処理の確定

2023年4月21日に行われた株式会社キュリオシティとの企業結合について第2四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、暫定的に算定されたのれんの金額1,553百万円は、会計処理の確定により707百万円減少し、846百万円となっております。のれんの減少は、主に顧客関連資産が105百万円、技術関連資産が914百万円、繰延税金負債が312百万円増加したことによるものです。

なお、のれんの償却期間は8年、顧客関連資産の償却期間は2年、技術関連資産の償却期間は10年であります。

3. 補足情報

受注の状況

（単位：百万円）

区分	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年1月1日 至 2022年9月30日）		当第3四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年9月30日）	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ITコンサルティング&サービス事業	37,905	15,805	42,252	18,339
ビジネスイノベーション事業	1,729	352	3,559	1,680
合計	39,635	16,157	45,811	20,020

区分	第2四半期連結会計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）		当第3四半期連結会計期間 （自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ITコンサルティング&サービス事業	12,610	16,741	15,225	18,339
ビジネスイノベーション事業	1,542	1,377	1,295	1,680
合計	14,152	18,118	16,520	20,020